

### 附属小では、なぜ学級活動（学級会）のコーナーが教室前面にあるのだろうか

附属小の教室経営の特色の1つに教室前面の掲示があります。黒板には原則何も掲示しません。その両脇に掲示できるコーナーがあって、昔は木製のパネルにコットン紙を貼って、掲示物を作成するのが恒例でした。今はその掲示コーナーもホワイトボードに変わり、線をひいて、後は中身を記入すれば完成です。さて、その前面の子どもたちから見て左側に「学級活動（学級会）コーナー」が全学級で設けられています。議題と提案理由が記入できるようになっていて、司会や書記などの計画係の子どもたちの名前も記入できるようになっています。

附属小で勤務していると、教科部に所属し、自分が所属する教科について公開授業をしたり、研究をしたりする時間が多くとれます。ただ、そういった教科の研究を重ねるに連れて、いかに「学級づくり」が大切かを感じるときがきます。そのような時に改めて学級活動の大切さに気づくわけです。

学級活動は内容によって話し合い活動、係活動、集会活動と3つに分かれます。なかでも「集会活動」は最も子どもたちが楽しみにしている活動です。また話し合い活動は、今すぐ解決した方がよいこと、クラスの中で困っていること、みんなの力で行ってみたいことなどの議題選定の観点をもとに、教師と計画係が打合せをもって議題を決定します。提案理由を考え（ここが大切）、そして学級全体への提示へと進んでいくわけです。

議題選定の過程で問題点や課題を教師と子どもが共有し、学級全員に事前に示すことで一人一人に考えをもつ時間を与えているわけです。特に、3、4年生の子どもたちはこのような計画係の仕事に喜んで取り組んでいたことを覚えています。実際の話合いでは、自分の意見に理由を付けて話すことも大切ですが、友達の意見をしっかり聞くこと、そして共感的に受け止めることを大事に指導します。そして話し合うことよりも大切なことは、決まったことを必ず実行すること、「為すことに学ぶ」が特活の精神です。このような繰り返しの中で、子どもたちは、学級の一員としての自覚を深めるとともに、話し合うことの大切を学び、低学年から「話し合いの仕方」を身に付けていくことにつながります。

私は学級活動は学級づくりの原点であり、このような指導の繰り返しがどの学級でもベースにあるからこそ附属小での教科の授業や研究が充実しているのだと思っています。言い換えれば、学級経営の根幹が学級活動の時間にあり、だからこそ、子どもたちが毎日目にする教室の前面に「学級活動コーナー」があるのだと理解しています。

それにしても、思い出すのは平成2年の公開研究会で参観したS先輩の学級活動の授業「ひまわりコーナーの使い方を考えよう」です。当時公立の小学校で2年生を担当し、学級活動の指導に悩んでいた私に、当時の勤務校の教頭先生は附属小の授業を見てくることを勧めてくれました。附属小の2年生の子どもたちが自分たちで話し合いを進める姿やどの子も積極的に意見を交換する姿に圧倒されたのを覚えています。そして、自分もこのような学級をつくってみたいと強く思いました。それは私が教師になって初めて「学級づくり」を考えさせられた瞬間でした。

(文責：副校長 手代木)